

新年のごあいさつ

坂東市長 吉原 英一



元日の朝の空気は凜として、坂東市躍動へのさらなる期待感を抱くとともに、あらためて身の引き締まる思いがいたしました。

新年明けましておめでとうございます。

市民の皆様には、輝かしい新春をお迎えのことと存じます。また、旧年中は市政運営に對しまして、深いご理解ならびに温かいご支援とご協力を賜り、心より厚く御礼申し上げます。

昨年は坂東市にとって新たな幕開けの年でありました。東日本震災以降、ご不便をおかけしていた市役所岩井庁舎の建て替えが完了し、「新庁舎」として開庁を迎えることができました。これもひとえに市民の皆様方のお力添えの賜物と深く感謝申し上げます。新庁舎は市民の皆様の安全安心を守る防災拠点としての機能を十分に備え、また多くの人々が集えるよう開放的なスペースを確保することで、地

域の絆が育まれるとともに市民主体のまちづくり活動の拠点として活用されることが期待されます。また、猿島庁舎については改修を加え、新たに「さしま窓口センター」として生まれ変わりました。これまで北側にあった玄関を南側に移設し、公民館やミューズ、体育館と同じ方向を向くことで一体的になり、より高い利便性を実現することができました。

中心市街地では、観光交流センター「秀緑」、まちなか交流センター「ゆめぷらざ坂東」がグラウンドオープンを迎えました。両施設のオープンにより、年間45万人が訪れる自然博物館からたくさんの観光客が両施設に、さらには坂東郷土館ミューズまで足を運んでいたことで、まち全体の賑わいづくりや活性化に繋がるものと確信しています。またオープン前に、大変うれしいニュースが飛び込んできました。旧大塚酒造店舗兼主屋と本蔵

が国の登録有形文化財に登録されることになり、坂東の誇れるものがまた一つ増えました。今後は商店街と連携しながら、本市の観光拠点として多くの皆様をお迎えしたいと考えています。

さらに、半谷・富田地区に整備を進めてきた坂東インター工業団地については、すでに2区画の分譲契約が成立し、順調に造成工事を進めています。ほかの区画についても、多くの企業から引き合いがきているところです。安心して暮らし続けられる地域社会を維持していくためには、誰もが働きやすい身近な職場を確保していくことが必要です。さらなる定住促進に向け、優良企業の誘致に積極的に取り組んでまいります。

そしてこれらの整備は、10年、50年、100年先の将来を見据えた事業であります。